

8 学校アクションプラン

令和6年度 魚津高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実	
現 状	- 生徒個々の進路希望がかなうよう、学力の向上を目指し授業の充実を図ってきた。互見授業や公開授業、授業アンケートを実施し、授業力向上に取り組んでいるが、授業を含め学習に対して受け身の生徒の割合が高いように思われる。 - 生徒には入学当初よりオリエンテーションなどを通して学習の習慣を身につけさせる指導を行う。また、生徒の学習時間や学習への意欲を把握し、面談や声かけによって、生徒一人ひとりにきめ細かな指導を行う。	
達成目標	①授業力の向上 ア. 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合 イ. 「授業に興味関心を持てる」と答える生徒の割合	③1・2年生の学習習慣 ア. 1週間の平均学習時間 イ. 学習について自分なりに工夫している生徒の割合
	ア・イともに80%以上	ア. 1500分/週 以上 イ. 70%以上
方 策	互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施する。実施後は、授業方法について教科部会で協議し、生徒が自主的、主体的に「もっと学びたい」と意欲を持ち、「深い学び」へと繋がるよう工夫をする。	「学習実態調査」を実施し、担任が生徒の学習実態（予習→授業→復習のサイクルができているか）を把握し、効果的な面接指導を行う。 また、調査結果をもとに学年、各教科が共通認識を持って連携し、課題の出し方、取り組みせ方について工夫する。
達成度	ア. 互見授業に参加した回数が年間2回以上である教員の割合 94.6% イ. 「授業に興味・関心を持てる」と答える生徒の割合 80%以上である科目 78.9%	ア.1年：4月 1200.1 (31人) , 9月 1081.2 (34人) 2年：4月 850.2 (10人) , 9月 1027.0 (20人) イ. 67.1% (1年 69.1%, 2年 57.8%, 3年 71.1%)
具体的な取組状況	- 互見授業の平均は4.2回（中央値4） 「授業に興味・関心を持てる」と答えた科目は、前期 79.8%, 後期 77.6% 「授業に興味・関心を持てる」と答えた生徒の平均は 82.0% - 生徒による授業評価では、概ね「興味・関心がある」と答えていた。文理クラスに分かれる2・3年では、苦手とする科目や受験と関係がないと判断した科目で80%を超えないのがみられた。	<4月と9月の比較について> 1 学年では平均値・中央値ともに下がっているが、目標時間達成生徒が増えている。目標時間の8割以上10割未満の生徒が21人減っており、9月までの過ごし方が学習習慣の確立の鍵となっているようである。 2 学年では平均値・中央値・目標時間達成生徒数すべてが上昇している。受験を意識し始めたことが要因と考えられる。 - 学習時間と睡眠時間には相関関係は見られなかったが、メディア端末使用時間とは負の相関関係が見られた。
評価	A	B
学校関係者の意見	生徒も教員も十分頑張っている。互見授業では教員の授業の技術だけでなく、どのような場面で生徒が楽思想に学習をしているのかに注目し分析してほしい。	
次年度へ向けての課題	新入生からタブレットが個人購入となるので、授業においても活用が期待されている。互見授業を通して活用の仕方の工夫を学ぶことが必要。引き続き互見授業の活性化を目標としたい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

8 学校アクションプラン

令和6年度 魚津高等学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	学校生活
重点課題	18歳成人に向けた、学校生活における意識の向上
現 状	- 本校の生徒は、全体的に真面目かつ素直であり、自分で考えて判断し行動できる力がある。様々なアイディアを生み出したり、工夫を凝らしたり、修正を加えたりする能力を潜在的に持っている。しかし、実際には多くの日課をこなす中で思考が働かせづらくなり、自ら考え、目的意識を持って行動する機会が乏しくなりがちで、指示待ちの生徒が少なくない傾向にある。 - 精神的に未熟な面を持つ生徒が少数ではあるが存在し、他者や全体への配慮、ルールへの遵守において、思考・判断・行動が十分でないケースが見受けられる。
達成目標	成人年齢の引き下げに伴い、 ① 責任ある行動、自覚を高める意識を育む機会を設ける。 ② 1年間の学校生活の中で「適切な思考・判断・行動ができた」と感じる生徒を増やしていく。
方 策	- 生徒会、生活委員会を中心に、鍵かけ（自転車、ロッカー等）運動やあいさつ運動を行い、学校という共同体の中で目的意識を持って他者と協力することの大切さを考えさせる。 - 統一HRにおいて、自己と他者との「人権」や、様々な価値観や多様性を受け入れることの大切さを考えさせる。 - 始業式や終業式、学年集会等を通じて、「服装・頭髮・携帯電話・遅刻・駐輪」等、学校生活におけるルールやマナーを守る理由や意義について考えさせる。 - 交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室の実施やHR活動での「スマホのルール作り」を行い、「交通規則・SNS」等に関する法律を守る理由や意義について考えさせる。 - 年に2度、自己評価を実施し、(1)共同体における人間関係、(2)人権、(3)学校生活のルール、(4)法律遵守の4つの観点について、生徒一人ひとりの意識の改善・継続・向上を図る。 - PTA総会や各学期保護者会等で、アクションプランの重点課題と達成目標について理解を求め、家庭と学校が連携する体制を整える。
達成度	「第2回 自己評価」で「できた+概ねできた」と回答した生徒と、「第1回 自己評価」との増減 - 全学年【94%回答】-2% (1)92% <u>-1%</u> (2)96% <u>0%</u> (3)93% <u>-2%</u> (4)98% <u>+2%</u> 1学年【94%回答】-4% (1)92% <u>-2%</u> (2)95% <u>+1%</u> (3)94% <u>0%</u> (4)96% <u>+1%</u> 2学年【89%回答】-6% (1)87% <u>-7%</u> (2)94% <u>-2%</u> (3)87% <u>-8%</u> (4)97% <u>+2%</u> 3学年【98%回答】+3% (1)95% <u>+3%</u> (2)97% <u>0%</u> (3)97% <u>+2%</u> (4)99% <u>+1%</u> - 全学年における1年間を通しての成長の自己評価は、「できた」が65%、「概ねできた」が29%
具体的な取組状況	1学年(5月中旬)で、HRで生活委員が中心となってスマホやクラスのルール作りを行った。 1年生を対象に、「交通安全・非行防止教室」(4月上旬)、「薬物乱用防止教室」(7月初旬)を、魚津署から講師を招いて実施した。 - 全学年を対象に、HRで生活委員が中心となって「いじりといじめ」について話し合いを行った。 - 生徒会を中心に、「部活動における登下校時の服装のルール」について見直しを行った。 - 全学年を対象に、1回目(9月)の「自己評価」を実施した。結果は予想以上に高かった。 - 全学年を対象に、生活委員が中心となって「あいさつ・自転車鍵かけ運動」(9月上旬)を実施した。 2学年を対象に(12月初旬、家庭科)県消費者センター・県弁護士会から講師を招いて消費生活講座を行った。 - 全学年を対象に(2月初旬)「時間を守る大切さ」に関して全校生徒の意識向上のために、生活委員会で早起きクイズを行った。
評価	B
学校関係者の意見	SNS利用に関しては、家庭とともに学校でも指導が必要。制服の変更等に関して生徒の意見を取り入れる場を設ける。今後も生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう継続して教育活動を行ってほしい。
次年度へ向けての課題	生徒の規範意識、特に帰属意識を高め、学校やクラス全体を俯瞰する視点を持たせ、全体を意識した行動を行わせたい。また、スマホの使用、特にSNSの利用について家庭でのルール決めにPTAとともにいき、クラスのルール作りも積極的に行い、ルールを常に念頭に置いて行動するよう促したい。

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

(様式5) 8 学校アクションプラン

令和6年度 魚津高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導	
現 状	・全般的に進学に対する意識は高いが、大学進学のための目的や将来のビジョンが明確でなく、そのために具体的な進路目標の設定が遅い生徒が見受けられる。 ・生徒自身が自己の能力・適性を深く考えて進路目標を設定しているとはいえない面があり、漠然とした進路目標のため、自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒がいる。 ・9割以上の生徒が国公立大学に進学を希望している。	
達成目標	①進路指導支援全般と3年時の個別試験対策支援の満足度、充実度 (志望大学・学部・学科・将来の職業等の設定)	②国公立大学合格率 (国公立大学合格者数/国公立大学出願者数)
	卒業時の満足感、充実感を高める	合格率75%以上
方 策	・生活指導を基本とし、自学自習の力を養成する。 ・3年間を見通した進路指導計画を作成し実施する。 ・学習状況の把握を目的とした教科担当者を交えた学年検討会を開き、生徒の現段階での志望校を確認し、共通意識を持って学年及び全教師集団による指導を行う。 ・「進路探訪」や「進路探究」「富山大学訪問」などを通して進路を考えさせる。 ・進路講演会、先輩に学ぶ会、合格者に学ぶ会など、外部からの進路情報提供を充実させ、意欲的に学習に取り組ませる。 ・面接指導を通して、生徒理解を深めるとともに信頼関係を構築し、早期に進路目標を設定させることで学習意欲を高め、学習習慣を確立させる。	
達成度	大部分の生徒が本校の進路行事が大変または参考になったと回答している。	② 81.2% (国公立大学合格者数/国公立大学出願者数) 117名 / 144名
具体的な取組状況	・自らの進路をより具体的に考えるきっかけとして進路講演会(各学年1回)を実施した。事後アンケートの結果として94%の生徒が「進路を考える上で大変参考になった」「参考になった」と答えている。 ・進路探訪(2学年)では、文理別に2泊3日の日程で、大学、企業、施設見学・訪問を実施した。98%の生徒が「非常に満足」「満足」と回答した。また、81%の生徒が「自分の将来について考える機会が大変増えた、増えた」と回答した。 ・1学年で、8月に富山大学訪問を実施し、希望する学部の講義を、実際に2種類受講した。99%の生徒が「進学を考える上で大変参考になった」「参考になった」と回答した。また、同月には「先輩に学ぶ会」も行い、現在大学生である本校卒業生を招き、大学生活や高校時代の学業などについて講話してもらった。99.9%の生徒が「進路を考える上で大変参考になった」「参考になった」と回答し、文理選択など考える上でも役立つものとなった。	・学習状況、進路志望状況の共有を図るため教科担当者を交えた拡大学年会議(1、2学年)を各1回および進路検討会(3学年)を3回実施した。 ・難関大学を志望する生徒には、4月より国数英で個別指導を行い、過去問題を解かせた。 ・最難関大学を志望する生徒には、曜日で科目を固定し放課後演習を行わせた。また、対策委員会を設け、指導の進捗状況など科目担当者間の共通理解を図った。 ・マーク式問題対策として、7月の夏期補習から国数英を中心に問題演習を行った。 ・進路目標の設定、学習習慣の確立に向けて、面接期間などを設定し、学級担任による個別面接指導を実施した。
評価	A	A
学校関係者の意見	このままの指導を継続していただきたい。	

次年度へ向けての課題	・より充実した大学生活を送るために、学力面の課題はもちろんあるが、第1志望とする国公立大学への合格率を上げるにはどうしたらよいか？
------------	---

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和6年度 魚津高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	生徒の自主的・自律的な活動の充実	
	① 生徒主体の学校行事の運営	② 部活動の活性化
現 状	・学校行事の運営が、生徒の自主性や主体性につながるように、活動内容を工夫している。	・生徒は、学習と部活動を両立させようと努力している。
達成目標	・学校行事に主体的に参加し協力したことにより、達成感を抱いた生徒の割合。	・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合。
	80%以上	80%以上
方 策	・生徒が積極的に学校行事に参加できるように、生徒会が主体となって、できる限り意見を聞いて活動内容を工夫する。	・部活動に対する生徒の意識を高め、活動時間を有効に活用する工夫を促すことによって、部活動の活性化を図る。
達成度	※アンケート結果より ・学校行事に積極的に参加した生徒の割合 1年：79% 2年：80% 3年：86%	※アンケート結果より ・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合 1年：82% 2年：88% 3年：94%
具体的な取組状況	・球技大会は、生徒会が中心となって企画し、全校生徒がありそドームで行った。一堂に会することによって、目が行き届きやすく、盛り上がる事ができた。 ・体育大会については、3年体育大会実行委員会が中心となって競技や応援の方法を協議した。多くの生徒が活発に活動し、協力していた。 ・文化部発表会については、各文化部が日頃の活動の成果を全校生徒に発表し、有意義な時間となった。 ・ボランティア清掃については、生徒会が各部活動単位で参加を募集し、通学路の清掃等を実施した。前期・後期で約300名の生徒が参加した。	・定期的に部長を招集し、活動内容や活動環境について考えさせる機会を設けた。また、課題解決に向けて各部内での情報共有を行わせた。 ・約9割の生徒が部活動に加入しており、他学年とのコミュニケーションをとることで、部活動の課題を話しあったり、練習面以外にも学校生活の悩みを相談しあったりしている。また、各部の顧問は進路相談や生活指導の役割も担っており、良好な関係を心がけている。 ・各大会に向けての壮行会を行い、生徒の志気を高めさせ、学校全体で周知し応援するようにした。 ・今年度の全国大会出場者は9名、北信越（北陸）大会出場者は17名であった。（2月現在）
評価	B	A
学校関係者の意見	生徒の主体性を重視している点で、生徒も教員も十分頑張っている。このまま続けてほしい。	これからの社会を生き抜く中で、部活動を通して必要な力を伸ばしてほしい。学習以外の面でも活躍してほしい。
次年度へ向けての課題	行事によって、生徒の積極性や達成度に差が出るので、学校生活がより活発になるような学校行事にしていきたい。	部活動がより充実し、活発に活動ができるように、援助していきたい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和6年度 魚津高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	その他	
重点課題	① 図書貸し出し冊数の増加	② 生徒保健委員会の活性化
現 状	- 読書の習慣が身につけていない生徒がいる。 - 学習や部活動に多くの時間を割く必要があり、図書館を利用したくても来館できない生徒がいる。 2学期から3年生を中心に、小論文・面接のための資料探しや読書、また学習場所としての利用が増える。 - 教科の授業やHR、総合的な探究の時間等での閲覧室利用は増えつつあるが、まだあまり多くはない。 - 保護者を対象とした図書館開放を、毎年数回実施している。	- 清掃活動においては、率先して活動を行う生徒が多いが、取りかかりが遅く、指示待ちタイプの生徒も若干見られる。 - 学校保健委員会の発表までの準備過程で、共通認識に基づいた委員の自主性を発揮させるために、委員全員が揃う機会をできるだけ設ける必要がある。
達成目標	全学年の平均貸し出し冊数3冊	- 保健委員が、美化週間に関するアイデアを出して実行する。1回/学期 - 学校保健委員会による調査研究発表を行う。1回(12月)
方 策	1年次の図書館オリエンテーションで図書館利用を促す。また、2年次にも図書オリエンテーションを実施する。 - 生徒の興味・関心をとらえた企画、展示、広報活動を工夫する。また、校外図書選定等を実施し、できるだけ生徒の読みたい本をそろえる。 - 小論文対策のレファレンス機能の充実を図る。 - 教科の授業やHR、総合的な探究の時間等での閲覧室利用を促す。 - 教職員に対して図書資料に関する情報を発信する。また選書に関わってもらう機会を設ける。 - 保護者の図書館利用を促し、家庭における読書活動の雰囲気醸成の一助とする。	- 美化週間中に保健委員が教室を巡回し、清掃重点項目について、環境美化がなされているかを点検する。 - 保健委員が、テーマを定めてデータリサーチを行い、研究結果をまとめて、一般生徒や保護者にプレゼンテーションを行う。
達成度	平均6.0冊(令和6年12月末まで)	- 環境美化の点検を、各学期に実施した。 「心の健康」テーマにした学校保健委員会を12月に実施した。
具体的な取組状況	- 図書館で行うビブリオバトルなどのクラス行事を、図書委員・ルーム委員が企画し、実施した。 1学期中頃に、1・2年生の図書委員が「読書が苦手な人に勧める本」を、夏休み前に1・2年生のクラスごとの図書委員が「クラス全員で読むこの一冊」を選定し、クラスメイトに勧めた。 - 読書強化月間(12月)で、図書館イベント(音楽部コンサート、しおり・ブックカバー作り)や、図書館ブラウジング、一人一冊借りよう運動、カバンいっぱい借りられます)を行った。 - 図書委員が、自分のセンスや感性を生かし、魚高生が読みやすく、とっつきやすい「図書館だより」を作成した。 - 図書館に足を運ぶ機会を増やしたり、本に触れるきっかけを作ったりするようにした。	- 美化週間後に、保健委員会で改善点を検討し、環境点検の採点項目及び採点基準を見直した結果、清掃のポイントを明確にすることができた。 12月の学校保健委員会のテーマである「心の健康」について、ストレスのしくみとその対処法を2つのグループで発表した。事前の全校アンケートをもとに、調査、研究を行い、生徒の生活に即した実効性のある内容となった。発表内容の要旨は、保健だよりに掲載し、全校生徒も活用できるようにした。
評価	A	A
学校関係者の意見	- 貸し出し数が倍増するなど素晴らしい。 - 取り組みが具体的に魅力的である。	不登校生徒の増加の原因は、ストレスだと言われている。教員だけでなく生徒自身が、ストレスに対する知識と対処法について理解を深める必要がある。
次年度へ向けての課題	生涯にわたって読書の習慣が身につく働きかけを引き続き工夫したい。探究活動や小論文のための資料としての本の活用を推進したい。	- 心のケアについての多面的な取り組み。 - 環境美化の徹底。

(評価基準) A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状の、まま D: 後退した)